

「夏休み親子企画」 木の枝でつくる森の虫たち

7月24日 第8地域委員会

工作キット(昆虫4種)を使った親子工作体験。足と角は自分で作ってもらえるように小枝も準備しました。講師の地域コーディネーター、サポーター、お父さんたちが、枝の切り方などをアドバイス。1時間ほどで仕上がりが、「自然の木が良い」「かっこいいクワガタやカブトムシが作れてうれしい」と子どもたちは大喜びでした。工作後は、日本の森林と作物についての紙芝居。「今回のキットは、荒れて手入れもされていない宮城県杉林の『除伐材』を利用しています」というお話から、国産材、輸入材、国産作物や環境保全などを学びました。親御さんからも、「子どもにも分かりやすかった」と好評でした。



平和を考える 浅川地下壕の見学会

8月7日 第6地域委員会

浅川地下壕(八王子市)は、第2次世界大戦下に高尾駅(旧浅川駅)西南側の山稜に陸軍の倉庫として掘られ(総延長10km)、終戦間際には軍用機エンジンを製造するために使われました。講師の浅川地下壕を守る会・中田均さんの説明を聞きながら、高尾駅から現地へ。地下壕内は岩肌がむき出しで足元は真っ暗なため、懐中電灯で照らし、ヘルメット着用で見学。ダイナマイトを詰める穴・ロッコの枕木など当時の面影が残り、「高尾にこんな施設があったとは」「この地下壕のことを広めたい」という感想も。同守る会は月1回見学会を開催、近隣の高校生たちも浅川地下壕を保存し伝える活動を始めているそう。戦跡を守り、平和を伝えていく必要があると、改めて考える機会となりました。



1999年、隠されていたたくさんのダイナマイトが発見され、自衛隊が撤去するための足場がここに組まれた

ウクライナの方に聞く —ロシアによる侵攻—

8月25日 第3地域委員会

来日されて15年、愛知県在住のナターリヤさんとアンジェリカさんを迎え、ウクライナの歴史や文化、戦禍の中で暮らす人たちの現況を伺いました。破壊された街、不自由な地下室での生活、子どもの病気、市民への無差別攻撃におびえる日々。報道では感じ取れない、残忍で凄惨な被害を伝える生の声に胸が詰まります。

「全世界でこの戦争を止めないと、さらに被害が広がる」「世界の平和は努力しなければつけない」…辛い心情の中、語られたお二人の言葉を心に刻みました。

*この企画は会場とオンラインで60人を超える参加がありました。



「日本ウクライナ文化協会」副理事長のナターリヤさんとアンジェリカさん。両国の文化交流や避難民の受け入れなどの活動を続ける

「組合員組織と活動のあり方 今後の進め方説明会」

第48回通常総代会(6月16日開催)で確認された2022年度方針の中の活動計画の一つ、「組合員活動のスタイルについての見直しの議論」を進めるための説明会が始まりました。10年前と比べ、組合員の生活スタイルも変わってきています。多くの組合員がこれからの活動や東都生協に関わっていきけるように、1人からでも参加でき、地域のつながりにも目を向けたスタイルを組合員と共に検討しています。

初めに6月末〜7月初頭にブロック委員会を対象とした説明会を行い、合計112人の委員が参加しました。全体で「組合員組織の現状と課題」と「これからの組合員活動のめざす姿(骨子案)」について理事会が説明。質疑応答の後、全体または少人数のグループに分かれての意見交換を行い、たくさんの意見が出されました。

参加者からは、「ブロックや地域の枠にこだわらず活動ができるようにしてほしい」「地域に根差した活動を続けていきたい」「ブロック・とーと会・サークルを一本化した活動がイメージできない」「ブロック委員会をなくすと聞いて驚いている」などの意見・感想がありました。

8月末には2021年度総代、とーと会、サークル、自治体別連絡会への説明会も実施しました。今後も総代会議や各地域連絡会で、さらに意見を聞く機会を持ちながら、理解を深めていきます。活動に参加されていない組合員から意見を伺う機会も考えています。



1回の計5回開催
集会所4回とオンライン型



理事会報告(抜粋)

〔2022年度第4回定例理事会 2022年8月18日開催〕

〔審議事項〕●毛記事業約款改正の件

〔報告事項〕●2022年7月度決算報告●各部署業務報告●組合員活動委員会報告●商品活動関連報告●理事懇談会・研修会開催の件●キッチンスタジオ新設の件●Web注文サイト機能追加の件●常任理事会決議事項報告

〔2023年度第5回定例理事会 2023年9月16日開催〕

〔審議事項〕●「情報開示規程」に関する規程・細則の一部改正の件●第48回通常総代会に向けた理事会決議スケジュールおよび関連資料等の確認の件●2023年度役員改選手続きに関する件(その1)●第49回通常総代会委員等の構成確認の件●組合員組織と活動の新たなスタイル案確認の件(その1)●「アイガモロボ応援隊」募金実施の件

〔報告事項〕●2022年8月度決算報告●各部署業務報告●組合員活動委員会報告●商品活動関連報告●理事懇談会・研修会開催の件●常任理事会決議事項報告

〔今後の理事会日程(予定)〕●11月17日(木)・12月15日(木)

8月のわたしたち		
2022年8月20日現在 ※[]内は前年比		
組合員数	257,014人	[99.5%]
加入	3,189人	[90.2%]
脱退	3,355人	[79.5%]
総事業高	14,609,873千円	[94.2%]
共同購入事業	14,022,066千円	
弁当配食事業	156,560千円	
生活文化事業	84,979千円	
生活支援事業	28,944千円	
その他事業	317,323千円	
出資金	6,772,064千円	[101.1%]
1人当たりの出資金	26,349円	[101.8%]
1人当たりの利用高	6,118円	[99.2%]

今後の理事会日程(予定) ●11月17日(木)・12月15日(木)

東都生協2030年ビジョン ~食と農の感動体験を通じて、みんなの未来をシェアに~

「アイガモロボ応援隊！」募集



■有機米拡大の救世主

減り続ける有機米、生産者の高齢化や人手不足で除草に手が回らない…この問題を解決するのが「アイガモロボ」です。東都生協は、このアイガモロボを開発した有機米デザイン(株)に出資し、人と環境に優しい有機米の栽培を支援します。

■2023年、いよいよ市販化

2022年は、実証実験(無償貸与)として日本全国で210台のアイガモロボが稼働しました。東都生協では12の産直産地で18台が活躍。そして2023年新春、いよいよアイガモロボが市販化されます。

■「アイガモロボ応援隊！」募集

11月5回〜12月2回で、このロボットを生産者に贈るための「アイガモロボ応援隊！」を募集します。

みんなで少しずつお金を出し合っ(募金1口1,000円〜)、有機米の最大の課題を生産者と一緒に解決しませんか。募金をしていただいた組合員には、アイガモロボの活躍の様子や有機米の栽培、稲の生育の様子、生産者の生活や産地の情報をお届け予定。有機農業の意義を知り、生産者、産地のことを身近に感じ、収穫の秋を楽しみにお待ちください。

月1回、産地リレーで2kg米が届く、登録アイガモロボリレー米(仮称)も企画します。

募金の申し込み方法など「アイガモロボ応援隊！」の詳細は、11月14日(月)〜18日(金)配付の別チラシをご覧ください。

組合員が生産に関わり、産地を応援する仕組み

持続可能な社会を組合員と生産者が一緒に作る企画を、今後たくさん実現したいと考えます。例えば、みかんの苗を組合員が産地に贈り、耕作放棄地ではなく、みかんのある風景を残す取り組み(仮称:未来につなぐみかんの木)なども検討しています。

アイガモロボの仕組み

アイガモロボの動力は、自然エネルギーで(ソーラーパネルとバッテリー)。スマホアプリであらかじめ登録した田んぼに航路を設定し、搭載したGPSで自分の位置を確認しながら自動航行をします。

特殊な形状のスクリーが田んぼの泥をかき回し、田んぼを濁らすことで抑草をします。田んぼの表面の土はとろとろになり、芽を出した雑草も根付けず、アイガモロボが泥をかき上げたときに水面に浮いてきます。

朝、タイマーで目が覚めると、黙々とサボることもなく田をかき回し続け、夕方、田んぼの真ん中でお休みします。



JAやさと、東都生協組合員の実験田

2023年6月10日、東都生協は設立50年を迎えます。持続可能な社会の実現を見据え、2021年には「東都生協2030ビジョン」を策定しました。

「アイガモロボ応援隊！」は、組合員が生産に関わり、生産者と一緒になって、産地の自然と農業を守る取り組みです。食と環境への貢献を通じて、みんなでサステナブルな未来をつくりませんか!

